



2017年度 後期キリスト教週間

今年の後期キリスト教週間は、10月23日（月）～27日（金）に行われました。後期には珍しい台風が近づく中でのイベントでしたが、主の御守りによってすべて無事に行うことができ、充実した一週間となりました。

23日（月） 月曜礼拝「サマー聖書キャンプ」報告

最初のプログラムである月曜礼拝では、8月に開催した「サマー聖書キャンプ」の報告を行いました。

キャンプに参加した学生たちは、様々な場所や人々と出会う中で感じたこと、帰って来てから考えたことなどをそれぞれ自分の言葉で振り返っていました。



▲伊江島「ヌチドゥタカラの家」について発表する学生



▲辺野古「新基地建設現場ゲート前」について発表する学生



▲学生たちの発表を聞いてメモを取る礼拝参加者



▲発表後の集合写真



25日（水） 昼食会

水曜日は、それぞれお弁当やお菓子を食べながら昼食会をもちました。
それぞれの学校生活、授業、サークルのことなどを、学生だけでなく教職員も交えながら懇談のひと時を過ごしました。



26日（木） キリスト教講演会（講師：山田火砂子氏）

今年のキリスト教講演会には、映画監督・プロデューサーの山田火砂子氏をお迎えしました。
「泣いて笑って85年」という講演題で、山田監督がこれまでに携わった映画にまつわるお話や、映画を作ることの難しさや苦勞、そして喜びについて語っていただきました。
ご自身の平和に対する思い、キリスト教者としての信仰についてもお話しくださり、社会、戦争、平和、人間の問題に眼差す映画を中心に撮られている監督のつよい思いが感じられました。
また、障がいや福祉をテーマにした映画も多く手掛けておられる監督の信念や、障がいを持っておられる娘さんとのエピソードも語られ、山田監督ならではのエピソードの数々に参加者も集中して耳を傾けていました。



▲ご自身の体験を語る山田火砂子氏



▲講話を聞く参加者



27日（金） 映画上映会「筆子・その愛 -天使のピアノ-」

最終日は、キリスト教講演会でお話をしてくださった山田火砂子監督の映画「筆子・その愛 -天使のピアノ-」を鑑賞しました。日本における福祉と障がい児教育の先駆者となった女性、石井筆子氏の生涯を描いた作品で、上映会には保育科の学生の姿が多くみられました。

社会福祉という概念も言葉も今ほど定着しておらず、理解を得ることも難しかった明治期の様子が描かれ、学生たちにもわかりやすい内容だったようです。

厳しい現実が描かれたシーンもありながらユーモアに満ちており、観客からは笑い声やすすり泣きなど様々な反応がありました。

「もっと山田監督の映画が観たい」「ファンになってしまいました」などの声も多く聞かれ、とても充実した時間となりました。



▲多くの学生が足を運んでくれました



▲映画に見入る学生たち



▲映画に見入る学生たち

2017年度のキリスト教週間も無事終了することができました。

多くの皆様のご協力とお祈りに感謝いたします。

来年度も引き続き様々なプログラムを実施する予定ですので、ぜひご参加ください♪

